

FirstClass を利用した上級日本語コース
INCORPORATING FIRSTCLASS INTO ADVANCED JAPANESE COURSES

牛田英子, カリフォルニア大学サン・ディエゴ校
Eiko Ushida, University of California, San Diego

概要: 本発表では国際関係大学院の上級日本語コースにおける FirstClass グループウェアの活用方法を紹介する。当国際関係大学院における日本語コースは、上級レベルの日本語運用能力と学生の専門分野知識の習得を目的とし、ナショナル・スタンダードと内容重視のアプローチに基づいた学習活動をすすめている。FirstClass の長所は日本語版の使用、ユーザ管理、豊富な機能、そして簡単な操作である。FirstClass を日本語学習の道具として利用することにより従来の日本語カリキュラムを徐々に発展させ、授業内外で学習活動を展開することができた。コミュニケーション用ツールは混成式学習環境を構築し、メールサーバーとしての FirstClass の存在と履歴機能に利用価値が見られた。

Keywords: FirstClass日本語版, グループウェア, メールサーバー, コミュニケーション, コミュニティー

1: はじめに

カリフォルニア大学サン・ディエゴ校にある国際関係大学院は、テクノロジー環境の整備に力を注いでいる。全学生は各自のラップトップを持参することが義務づけられ、授業内外でのコンピューター・インターネット使用を当然としている。当大学院では、1992年より FirstClass をメールサーバーとして使用し始め、現在ではメール、会議室などの様々なグループウェア機能を活用し、ネットワーク管理者のもとで学生、教職員、卒業生をつなぐ大学院内外の学習・コミュニケーションコミュニティを構築してきた。

2: FirstClassの主な機能

FirstClassは、サーバー、カスタマイズなど多様な機能を備えた統合型グループウェアであるが、WebCT、Blackboard 等のコースマネジメント用ツールと比べ、教育現場での実践報告は数少ない。2005年秋より FirstClass 日本語版が利用できるようになって以来、大学院全体の日本語使用者間のネット上の日本語活動も活発化し、日本語コースにおいても FirstClass を利用した様々な学習活動を徐々に取り入れていった。2007年1月より日本語版最新バージョン (version 8.3) が登場し、さらに機能が拡大し柔軟になった。FirstClass はコミュニケーションとコラボレーションを支援する機能が豊富であるが、特に日本語教育において利便性が高いと思われる点は以下の通りである。

(1) 日本語版の使用

当大学院では英語版の FirstClass のライセンスを購入しているが、そのライセンスがあれば自動的に日本語版を使用することが許可されているため英語版と日本語版を両方ダウンロードして使用することができる。また、日本語版使用については FirstClass カスタマーサポートに直接日本語で問い合わせることもでき安心である。

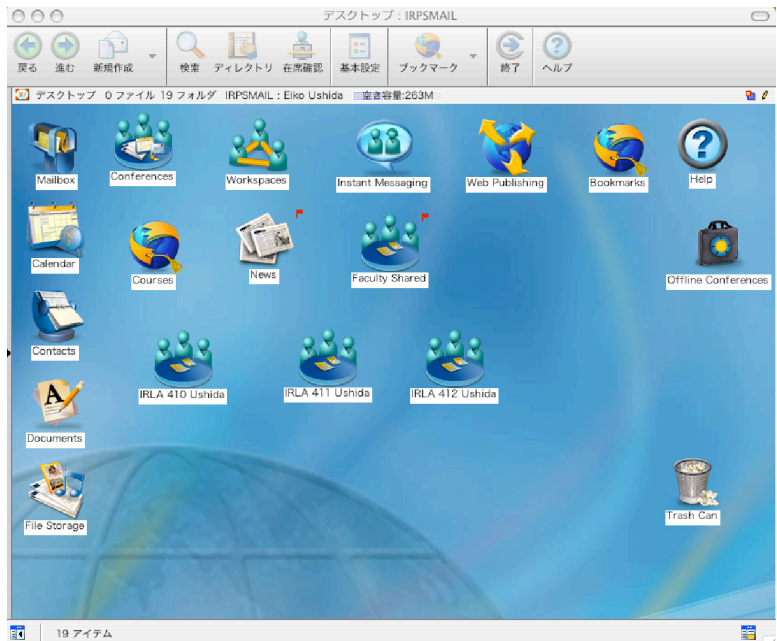
(2) ユーザ管理

ユーザ管理は WebCT、Blackboard のように大学院のネットワーク管理者により行われ、登録されたユーザのみが使用できる環境となる。自動的に登録されるのは当学院に所属する教職員と学生であるが、必要があれば管理者の判断次第で他者の参加や権限を柔軟に運用することができる。また、このユーザ管理により、登録されているユーザを一覧したり検索したりすることができる「ディレクトリ」機能、さらに接続中のユーザを確認することができる「在籍確認」機能は、後述のコミュニケーションの際に役に立っている。

(3) 多様なユーザ間におけるコミュニケーション

FirstClassではユーザ間でメール (Mailbox) 、オンラインディスカッション (Conferences 「会議室」) 、オンラインチャット (Instant Messaging) が全て同じ画面に表示され (図1) 、アイコンをクリックするだけで容易に使用できる。

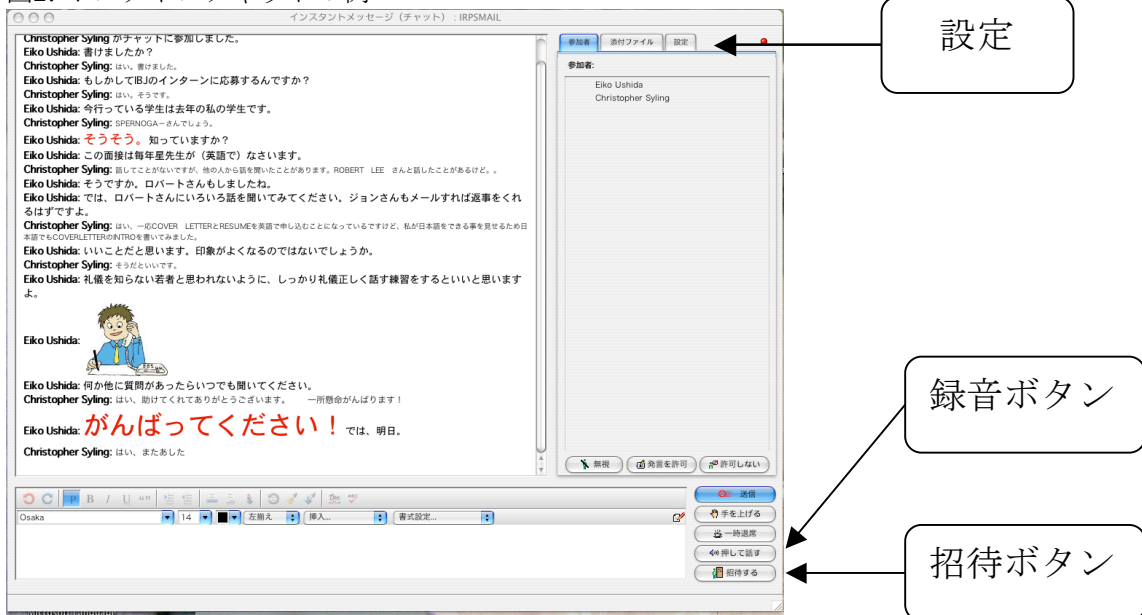
図1: FirstClass デスクトップ画面



メールは登録されたユーザ間であれば、名前の一部を入れるだけでメールアドレスが自動に表示される。会議室はネットワーク管理者により作成され、コース別、学生生活、卒業生とのネットワークなど、様々な利用目的に応じた数多くの会議室を設置し、ユーザ間で積極的に活用している。会議室はメールのように使用することもできるが、通常スレッド式ディスカッションが行われている。オンラインチャットは接続中のユーザを招待する方法と予め公開チャットルームを作成し

て行う方法があり、目的に応じて使い分けることができる。メール、会議室のメッセージ、テキストチャットでは色や文字スタイル・サイズを変えたりドラッグ&ドロップのみで画像を貼付けたりすることができ、ワープロ感覚で簡単に楽しむことができる。さらに、オンラインチャットでは録音機能により音声を送ることができ、ボイスチャットも可能である。会話の内容を保存する設定をすれば、保存されたチャットの記録がメールで自動的に送られてくる等、非常に多機能である (図2) 。

図2: オンラインチャットの例



(4) 履歴機能と送信取り消し

メールや会議室に送信したメッセージを誰がいつ読んだか、添付ファイルをダウンロードしたか等の履歴が確認でき、教師と学生がお互いの行動をリアルタイムに把握できるようになっている。また、一度送信したメッセージを取り消すこともでき、送信先のメールボックスや会議室から消すこともできる。

3: 上級日本語コースにおけるFirstClassの活用例

当国際関係大学院における日本語コースは、上級レベルの日本語運用能力と学生の専門分野知識の習得を目的とし、ナショナル・スタンダードと内容重視のアプローチに基づいた学習活動をすすめている。テクノロジー向上がクラスの目標・目的達成を促進し、内容を豊かにする可能性があるとして（聖田、1999）、スタンダードの5C'sを達成する道具としてFirstClassを様々な形で利用してきた。今西・梅田(2002)は、インターネットはコース運営においてコース情報の公開と共有、学習者、教師、日本語ボランティアスタッフ間の交流の場、教材や資料の共有と活用、そして学習記録保存と評価資料の4つの機能があると指摘している。本コースでもそれらの機能を言語学習と内容学習のために柔軟に活用できるよう試みた。中でも特に効果的だと思われた活用法は下記の通りである（表1）。

表1: FirstClassを利用したクラス運営、学習活動の例

	従来の方法	FirstClassを利用した方法
連絡事項	授業の始めまたは終わりに口頭、板書、ハンドアウトで連絡	各クラスの会議室に提示
授業外のコミュニケーション	学生がオフィスを訪問、メール	メール、各クラスの会議室、オンラインチャット
学生の質問	授業内、学生がオフィスを訪問、メール	メール、各クラスの会議室、オンラインチャット
講義ノート、教材	板書、ハンドアウト	各クラスの会議室に送付(Power Point, Word documents, PDF file)
リスニング練習	テープレコーダー（教室）	各クラスの会議室(audio file), 自分の音読を録音して送付
ディスカッション	クラス内活動（口頭）	オンラインチャット、会議室（クラス、全日本語クラス、日本専攻）
作文練習（クラス内活動）	ノートに書き、回収、教師が添削し、後日返却	各クラスの会議室に直接書き、クラス活動としてクラス全体で添削
宿題の提出とフィードバック	授業の始めまたは終わりに回収、後日返却	各クラスの会議室に送付（宿題、フィードバック）
口頭発表	各自コンピュータを持参し、Power Pointを見せる。ハンドアウト配布	各クラスの会議室にPower Pointを送付、1台のコンピュータを使用。ハンドアウト不要
自主学習の提示	教師に直接提出	各クラスの会議室に送付（例、語彙リスト、役に立つサイト、英訳）

4: FirstClassの利用価値

WebCTやBlackboardと比べると、FirstClassにはWebサイト掲載、クイズ、成績管理などの機能はないが、メールサーバーであるがゆえに効果的な側面もある。例えば、WebCTやBlackboardを使用する場合、学生はメールチェックのためにEudora、Outlookなどの他のツ

ルを主に使用しているため、履修コースのためだけにWebCTやBlackboardにログインする。そのため、そのコースの教材や課題には集中するが各コース専用のメールやオンラインディスカッションを軽視する可能性がある。しかし、FirstClassを使用する場合、それが主なメールサーバーとなるため、一度ログインすればメールだけでなく複数のディスカッションもチャットもできる状態になり、教師も学生も容易にオンライン活動に参加できるのは非常に効果的かつ効果的であると思われる。

メール、会議室、オンラインチャットの利用は壁のない教室を生み出し、学生は限られた授業時間以外に質問、宿題提出、情報の共有、意見交換等様々なクラス活動をするようになり、結果的に混成式(hybrid)オンラインコースのような学習環境が出来上がった。また、履歴機能により教師は学生の学習過程を確認でき、逆に学生も教師の指導過程を確認できるという意味では双方に緊張感が高まり、いい加減な行動を取りにくくなったように見える。その上、会議室へのメッセージは教師とクラスメートのみならず大学院コミュニティ内の全メンバーに見られる可能性もあり、その履歴も明確にわかるので、ブログのように「だれかに見られる／読まれる」ことを意識して投稿するようになる。そのため、学生のモチベーションが上がり、より質の高い宿題や発表用のパワーポイントを送ろうとするのも相乗効果の1つと言えるだろう。

5: 今後の課題と展望

FirstClass日本語版の使用を前提としてカリキュラムやクラス活動を開発しているが、なぜか日本語版がどうしてもうまくダウンロードできないコンピュータがあるのも事実である。英語版FirstClassでは日本語メッセージを読むことができるが書くことができず、上述の学習活動への参加が限定されてしまうため、学習進度や評価に支障が出て来る。今後そのような問題を即座に解決できるようにすることが当面の課題である。全学生が一学期目の初めから全て日本語でコミュニケーションできるような学習環境を整備し、日本語学習を日常生活の1部として体験する道具としてコミュニティ全体でFirstClassを利用していきたい。

参考文献

今西利之・梅田泉, インターネットを活用した日本語研修コースの運営について, CASTEL/J 2002 Proceedings, 135-138, 2002

聖田京子, 21世紀の外国語スタンダード: 日本語学習スタンダード翻訳版, 国際交流基金日本語国際センター, 1999